

## DNTC 患者症例の収集と IBGC 患者の頭痛・生活習慣に関する疫学調査

研究分担者： 塩入俊樹（岐阜大学大学院医学系研究科精神病理学分野）

研究協力者： 栗田尚佳、位田雅俊、保住 功（岐阜薬科大学大学院薬物治療学）

平田幸一（獨協医科大学内科学（神経））

永田知里、田村高志（岐阜大学大学院医学系研究科疫学・予防医学分野）

### 研究要旨

IBGC における診断ガイドライン確立・策定のため、日本老年精神学会の協力を得て、引き続き、DNTC の症例の収集を行っている。また、IBGC 患者の頭痛に注目し、昨年度より IBGC 患者に対する全国的な頭痛のアンケート調査を実施している。一次調査として頭痛の有無、分類について調査した。一次調査のアンケート回収率は 44.4%であった（送付総数：175 通、返信数：83 通）。返信があった 83 例のうち、34%の症例（28 例）で頭痛があった。頭痛があった 28 症例のうち、性別割合は男性（37%）に比べ、女性（63%）の方が約 2 倍多かった。頭痛に関する分類について、アンケートの結果を基に集計したところ、前兆なしの片頭痛に近い傾向が認められた。さらに、一次調査で頭痛を訴えた 28 例について、HIT-6、MIDAS の質問票を用い、二次調査として頭痛の日常生活に与える影響の調査を行った。二次調査のアンケート回収率は 57.1%であった。回答者の約 6 割で HIT-6 の有意なスコア（50 以上で日常生活に影響あり）を示した。また、頭痛の重症度と脳内石灰化の間では、相関は認められなかった。さらに、IBGC における生活習慣のリスクファクターについては、家族例に絞って調査を進行中である。

### A. 研究目的

IBGC における診断ガイドライン確立・策定のため、日本老年精神学会の協力を得て、引き続き、DNTC の症例の収集を行う。また、平行して、我々は IBGC 患者の頭痛に注目し、全国規模の頭痛のアンケート調査を実施する。本調査では、IBGC のにおける頭痛症状の詳細な調査を行うことで、脳内石灰化の程度などの IBGC 症状と頭痛の関連性を見出し、診療ガイドライン確立・策定に役立てる。さらに生活習慣におけるリスクファクター調査を行い、疾患モデルの作成等に役立てる。

### B. 研究方法

一次調査として頭痛に関する質問票を IBGC 患者（175 症例）に対し各医療機関を介して郵送した。質問票の質問項目ごとに、集計し頭痛の性状について解析する。さらに二次調査として、HIT-6、MIDAS の質問票を用い、頭痛の日常生活に与える影響の調査を行った。すべての頭痛に関する調査は獨協医科大学神経内科 平田幸一先生の御協力の下、行われた。生活習慣におけるリスクファクター調査の質問票の作成は、岐阜大学大学院 医学系研究科 疫学・予防医学分野 永田知里先生の御協力の下、行われた。

## (倫理面への配慮)

すべてのアンケート調査および研究計画は岐阜大学および岐阜薬科大学の倫理審査委員会の承認を受けた上で実施した。

## C. 研究結果

日本老年精神学会の協力を得て、引き続き、DNTC の症例の収集を継続し、42 症例の登録があり、2 症例で DNA が採取された(平成 28 年 1 月末現在)。

頭痛の一次調査としてその有無、分類について調査した。一次調査のアンケート回収率は 44.4%であった(送付総数:175 通、返信数:83 通)。返信があった 83 例のうち、34%の症例(28 例)で頭痛があった。頭痛があった 28 症例のうち、性別割合は男性(37%)に比べ、女性(63%)の方が約 2 倍多かった。頭痛に関する分類について、アンケートの結果を基に集計したところ、前兆なしの片頭痛に近い傾向が認められた。さらに、一次調査で頭痛を訴えた 28 例について、HIT-6、MIDAS の質問票を用い、二次調査として頭痛の日常生活に与える影響の調査を行った。二次調査のアンケート回収率は 57.1%であった。回答者の約 6 割で HIT-6 の有意なスコア(50 以上で日常生活に影響あり)を示した。また、頭痛の重症度と脳内石灰化の間では、相関は認められなかった。

IBGC における生活習慣のリスクファクターについては、家族例に絞り調査を進行中である。

## D. 考察

IBGC において、前兆のない片頭痛の傾向を示す患者の割合が多かった。また、頭痛の重症度と脳内石灰化の程度には、相関は認められない様であった。しかしながら、なぜ IBGC で前兆のない片頭痛が多いのかは、不明であ

り、今後さらなる検討が必要であると考えられる。

## E. 結論

IBGC において、前兆のない片頭痛の傾向を示す患者の割合が多かった。頭痛の重症度と脳内石灰化の程度には、相関は認められない様であった。生活習慣におけるリスクファクターについては、引き続き検討していく予定である。

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

投稿準備中

Characterization for Headache in Idiopathic Basal Ganglia Calcification in Japan. Kurita H et al, In preparation.

### 2. 学会発表

未発表、第 6 回特発性脳内石灰化症班会議(平成 28 年 2 月 6 日、岐阜市)にて報告した。

## H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得 なし

2. 実用新案登録 なし

3. その他 なし